

「小金城と根木内城」展

市立博物館で3月22日まで開催

松戸市立博物館(21世紀の森と広場隣接)で、3月22日まで、館蔵資料展「小金城と根木内城」が開催されている。両城は戦国時代に東葛地域を拠点に隆盛を誇った高城氏が居城とした城。松戸の戦国時代をひも解く貴重な機会となりそうだ。【戸田 照朗】

高城氏と戦国時代の松戸

高城氏で実名が確定した平氏の一族で鎌倉幕府の創設に貢献した。府の扱いを受けていないが、16世紀の4代高城氏が千葉氏の一族だ。小金城を築城した人は、胤忠、胤吉、胤辰、胤則と「胤(たね)」も家臣団の中から認められる高城胤吉の字がつく。これは千栗氏に共通する特徴。うことを許されるよう千栗氏は関東に定着し

町時代の1428年(寛正元年)に1460年との説もある。高城氏は熊野新宮の侍だったという伝承もあり、帰国の途上、一時熊野(和歌山県)にいて、様子をうかがっていたのかも。高城氏は安藤、鈴木、座間、田口、血矢(染谷)、田嶋(戸辺)、池田、小川、斉藤、藤田など多くの家臣を引

た。その跡は一部が根木内歴史公園として保存されている。また、近くには出城的砦として行人台城があった。ここでは、激しい戦闘が行われた。



根木内城の嚴重な障子堀(しょうじぼり)



1962年の小金城の本城(ほんじょう)地区の発掘

北条氏康の電撃作戦命令は高城氏の通報から(西原文書)



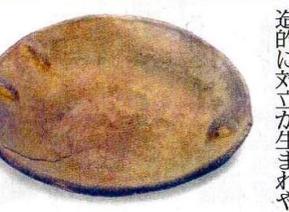
高城氏が下総国に帰したの60年間続いた南北朝の争いが終わった正長元年(室

里見軍の松戸攻撃は畑荒ら(豊前氏古文書)



寛正3年(1463)には、高城胤忠が根木内本格的な城を建設して、ここを本拠とし

3つの耳状の突起に紐を通して吊った内耳鍋



京都に室町幕府を開いた足利尊氏は関東経営のために鎌倉府を置いたが、この組織は構造的に対立が生まれや

地鎮用に輪宝(りんぼう)を描き、柱穴に埋められ漆器



この戦いの結果、原氏が小弓城に戻ることで、高城氏が小金城の主となった。

和え物や漬物が相応しい灰釉端反皿(かいゆうはそりざら)



8日午前8時頃、矢切の渡しからめきの瀬を北条軍が渡り、大坂(野菊の墓文学碑のある西蓮寺下の急坂)あたりで里見軍と戦闘が始まった。結果は里見軍の大勝。しかし、その夜、大勝を油断していた里見軍を北条氏

政の軍が包囲し、夜襲をかけた。里見軍は徹底的に打ちのめされた。



小金城の高城胤辰は、この合戦の功勞で二合半領(三郷市、葛西亀井戸、牛島から行徳、船橋に及ぶ所領を与えられ、従五位下下野守に任ぜられた。